

双方向のコミュニケーション① いかに関ひ合ひるか？

健康に生きる、それは誰もがめざすところだす。さまざま情報が飛び交う中、どのように学べばよいのでしょうか。マスコミの報道、健康に関する雑誌や書籍、SNS、口コミ、そして病院の医師や看護師の話。私たちは向学心をもって日々の診療を行っています。そして患者さんからの声からも、多くの学びを得ているのです。患者さんへ、一般市民の皆さんへ、どう情報を発信し、どう学び合ひるか。取り組みをいくつかご紹介しましょう。

●ハッピー健康相談室

年4回、6・9・12・3月、第1水曜の午後2時から4時の開催です。皆さんのニーズを考へてテーマを選び、専門領域の医師と多職種のスタッフがお話しします。正面玄関脇の情報コーナーに椅子を並べて、モニターに画像を映してわかりやすい説明を心がけています。会場の皆さんとの楽しいやり取りが、お互いの学びにつながるでしょう。

●市民公開講演

当院は「地域がん診療連携拠点病院」に指定されており、地域に向けた市民啓発活動が責務の一つです。どの科も「がん」を診療していますから、各科で協働して無料の講演会を企画しています。これまでも多くの皆さんにご参加いただいております。直近は8月24日の桐生市市民文化会館、タイトルは「みんなで学ぼう肺がんのこと」です。参加自由ですので、ホームページのイベント情報をご覧ください。

●がん患者サロン「あおぞら」

がんの患者さんご家族を対象に、毎月第1金曜、5階東病棟の会議室にて、出入り自由のオープンなサロンを無料で開催しています。患者間のコミュニケーションも大切ではないでしょうか。「同じ病気の人と話してみたい！」「こんな時、他の人はどうしているのだろうか？」悩みの解決や情報交換にお役立てください。

●地域医療勉強会

これは医療・看護・介護・福祉などに関わる方々が対象です。多職種の連携を図り、三次元的な「統合」につなげられればと考へます。この勉強会で得た知識と技術が、結果として市民の皆さんに役立つことが願ひです。「地域医療の絆を紡ぐ」桐生で主催したある学会のテーマが、当院のめざすところでもあります。

●出前講座

日本看護協会の認定看護師が、医療機関などに出張して講義します。地域基幹病院として、持てるリソースを地域に向けて活用したいのです。筆者の関わり強い皮膚排泄ケア認定看護師

(WOC ナース) は、褥瘡 (じょくそう) やストーマ、スキンケアなどをテーマに多くの依頼を受けており、地域医療の質向上をめざしています。

●院外広報誌「ほほえみ」

年4回の発行です。いかにパツと手に取ってもらえるか、編集会議を繰り返して検討しています。どなたにも読みやすい誌面、わかりやすい文章、ニーズの高い項目、読まれたことはありませんか。病気の知識、当院の診療体制、新しい治療、イベント情報など、ぜひお手にとってご覧いただき、ご意見いただければ幸いです。

●病院ホームページ

今や SNS の時代、ホームページ (HP) にも力を入れています。HP の閲覧は8割方がスマホですので、見やすい画面になるよう検討を繰り返しています。さまざまな情報を発信し、そして地域からさまざまなご意見をいただき、皆さんの期待にこたえられる病院にしていきたいのです。

「信頼され、心が通う地域医療」これは私たちの基本理念ですので、その実践に役立つツールの一つとして HP があると考えています。ぜひ訪ねてみてください。

<https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp>

【副院長兼皮膚科診療部長 岡田 克之】

